

金沢工業大学

平成 24 年度 大学機関別認証評価
評価報告書

平成 24 年 6 月

公益財団法人 日本高等教育評価機構

金沢工業大学

I 認証評価結果

【判定】

評価の結果、金沢工業大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する。

II 総評

「基準1. 使命・目的等」について

大学の使命・目的は、簡潔明瞭な文言による三大旗標を掲げる「建学綱領」に定められており、大学の個性・特色を明示するとともに、学校教育法などの法令に適合している。使命・目的に基づく教育目的は、社会の変化や要求などに対応して適切に設定されている。

大学の使命・目的を核として、学園共同体のビジョンや価値基準・行動規範などを定め、周知することによって、学生、教職員全体の目標を共有化している。使命・目的及び教育目的は、教育研究組織の構成とも整合し、中長期計画においても適切に検討されている。

「基準2. 学修と教授」について

大学全体の入学者受入れの方針は、明確化され周知されており、その方針に沿った多様な入試が行われている。学科によって一部偏りがあるものの、全体では適切な学生数を維持している。

教育目的を踏まえた教育課程編成方針は、学長主導で組織的に明確化され、その編成方針に沿った教育課程は、多様な科目群による体系的編成となっている。教員と職員の協働体制による学修支援、TA(Teaching Assistant)などの活用による授業支援も整備されている。また、単位認定、卒業・修了認定などに関する基準は、大学の「学則」「修学規程」などで明確化され、適切に運用されている。

社会的・職業的自立を支援する体制は、教育課程内外を通じて適切に整備されている。授業アンケートをはじめとする教育目的の達成状況調査やその改善に向けたフィードバックが適切に行われ、学生生活を支援するための体制や環境も整備されている。

大学の教育目的を達成するための教員配置は適切であり、教員の資質・能力向上の取組みも工夫されている。また、教育研究環境も大学の特色に基づいて整備されている。

「基準3. 経営・管理と財務」について

学校法人の経営理念に基づいて、学園共同体として共有すべき価値を示し、行動規範を定めることによって経営の規律と誠実性を維持している。大学の使命・目的の実現に向けた努力は組織的に行われ、学校教育法などの法令順守や人権、安全に関わる対策は適切である。また、教育情報、財務情報も適切に公表されている。

大学の使命・目的の達成に向けて、経営と教学の機能分離を明確にしつつ、理事会は、そのもとにある常任理事会などの組織が有効に機能することにより、戦略的意思決定機関となっている。また、大学の意思決定は、学長主導による構成が整備されている。法人と大学の管理運営は、責任分担が明確な中で連携・調整を図る組織も設置され、業務執行体

制が適切に機能するとともに、財務運営や会計処理・監査は、適切に行われている。

「基準4. 自己点検・評価」について

教育の質保証のために、自己点検・評価体制は整備されており、複数の外部評価を受審し、エビデンスに基づく自己点検・評価を実施している。自己点検・評価結果を学内外へ公表するとともに、その結果を活用して改善向上を図るためのPDCAサイクルも適切に機能している。更に、大学の使命・目的に即した自己点検・評価方法として、学修、教育、研究を軸とした独自の評価体系を、今後に向けて構築している。

総じて、大学の掲げる使命・目的を原点として、教育・学修制度は適切に構成され運営されている。また、経営と教学が明確に位置付けられ、規律ある経営と適切な教学運営が機能している教育機関であり、学生満足度も高い。更に、教育の質保証に関する取組みも意欲的であり、独自の評価体系による今後の展開とその成果が期待できる。

なお、自己点検評価書においては、評価機構が定める4つの「基準」以外に、大学が使命・目的に掲げ、個性・特色として重視している領域があれば、独自の基準などを設定して自己点検・評価を行うことが求められるが、大学の自己点検評価書に独自の基準設定はなかった。

大学は、使命・目的に掲げ、個性・特色として重視している領域に関して、評価機構が定める4つの「基準」に関する内容において十分に記述されているとの認識を示している。

Ⅲ 基準ごとの評価

基準1. 使命・目的等

【評価結果】

基準1を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

1-1 使命・目的及び教育目的の明確性

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

1-1-② 簡潔な文章化

【評価結果】

基準項目1-1を満たしている。

【理由】

大学の使命・目的は、「建学綱領」において、「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」という簡潔な文言の三大旗標として掲げられている。

大学の使命・目的に基づいた教育目的は、寄附行為、学則に明確に定められており、それらを周知するための「イーグルブック」という媒体には、建学綱領を核として、学園のビジョン、学園共同体の信条として行動規範が総合的に示されている。更に、具体的な内容は、「大学ガイド」（入学案内）、「CAMPUS NOTE」（学生便覧）、ホームページなどに明示されている。

【優れた点】

- 「建学綱領」に基づいて使命・目的及び教育目的を明確に定めており、更に、それを具現化する理念として「学園のビジョン」、行動規範として「KIT-IDEALS」を明確に定め、開学時から一貫した目標を掲げ実践する教育機関として高く評価できる。

1-2 使命・目的及び教育目的の適切性

- 1-2-① 個性・特色の明示
- 1-2-② 法令への適合
- 1-2-③ 変化への対応

【評価結果】

基準項目 1-2 を満たしている。

【理由】

「建学綱領」に基づいて学則に定められた大学の使命・目的及び教育目的は、大学の個性・特色を明示している。その中で、「高邁な人間形成」として人格の陶冶を含めて広く知識を、「深遠な技術革新」として深く専門の学芸を、「雄大な産学協同」として応用的能力の展開となっており、学校教育法（第 83 条）に基づく適切なものとなっている。

使命・目的としての三大旗標の具現化を図るため、教育、研究、サービスにわたる教育目標として、「行動する技術者」の育成、「国際社会に貢献する科学技術」の実現、「夢考房キャンパス」の実現を掲げており、その実現のために、「教育付加価値日本一」から「行動する技術者育成」へ、更に「自ら考え行動する技術者育成」へと、社会の変化や要求に対応する実践目標を掲げている。

1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

- 1-3-① 役員、教職員の理解と支持
- 1-3-② 学内外への周知
- 1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映
- 1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

【評価結果】

基準項目 1-3 を満たしている。

【理由】

「建学綱領」に掲げる三大旗標による大学の使命・目的を核として、その実現に向けた学園共同体の理念を「学園のビジョン」として掲げ、学園構成員の行動規範となる「KIT-IDEALS」を定め、それらを包括的に「イーグルブック」としてまとめ、全教職員による共有化を図っており、役員・教職員の理解と支持を得る努力がなされている。また、学内外への周知は、入学案内、ホームページなど多様な媒体により行われている。

中長期的な計画は、「学園戦略委員会」において検討され、大学全体として、ディプロマ

ポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの明確化が図られている。

学部・学科・研究科・専攻・附属機関などの教育研究組織は、使命・目的及び教育目的を達成するために、適切な構成となっている。また、運営組織は、機能別に構成されており、複数系統の重層的組織であるが、適切に整備されている。

基準 2. 学修と教授

【評価結果】

基準 2 を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

2-1 学生の受入れ

- 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知
- 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

【評価結果】

基準項目 2-1 を満たしている。

【理由】

大学全体の入学者受入れ方針が明確化され、「大学ガイド」「学科ガイド」「CAMPUS NOTE」などにより広く学外に周知されている。

この受入れ方針に基づき、「進学が目的が明確な学生」「教育システムを十分に活用できる学生」「技術者に求められる基礎学力を身につけている学生」の受入れに対応する多様な入試が実施されている。

一部の学科で入学定員の未充足が続いているが、学部及び大学全体としては適切な学生受入れを維持している。

【参考意見】

○学部の入学者受入れ方針が大学全体では定められているが、学部・学科の教育目的に沿って募集単位ごとに定められていないため、定めることが望ましい。

2-2 教育課程及び教授方法

- 2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化
- 2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

【評価結果】

基準項目 2-2 を満たしている。

【理由】

教育目的を踏まえた教育課程編成方針が学長より示され、学内諸機関の議を経て明確化

され、平成 20(2008)年度からの第 4 次教育改革において改めて確認されている。この教育課程編成方針は、「CAMPUS NOTE」「CURRICULUM GUIDE BOOK」などに明示され、各教育課程の学修・教育目標並びに科目群の学修・教育目標の周知が学生に図られている。

教育課程は、プロジェクトデザイン教育の熟成を目指し、修学基礎教育科目、人間形成基礎科目、自然言語科目、人工言語科目、理工学基礎科目、基礎実技科目、専門基礎科目、専門コア科目、専門プロジェクト科目が編成方針に基づいて体系的に編成されている。

「自ら考え行動する技術者」を育成するため、学生の自学自習に重点を置いた授業方法が採られており、特色ある学修プロセスや修学ポートフォリオなどが活用されている。

【優れた点】

○教育水準の向上のための「CURRICULUM GUIDE BOOK」は学修情報を分かりやすく提供しており高く評価できる。

2-3 学修及び授業の支援

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant) 等の活用による学修支援及び授業支援の充実

【評価結果】

基準項目 2-3 を満たしている。

【理由】

教育支援機構の「数理工教育研究センター」「基礎英語教育センター」「夢考房」など多様な施設が整備され、教員と職員の協働を通して、充実した学修支援が行われている。オフィスアワーは科目担当教員を中心に週 2 回以上設定するとの方針に基づいて全学的に実施されている。

修学基礎教育課程、英語教育課程、数理工基礎教育課程、基礎実技教育課程における学修支援は 3 年次、4 年次の学生が行い、また、専門教育課程における学修支援は院生が行っており、TA(Teaching Assistant) などの教育補助員制度が適切に整備され、活用されている。

学修及び授業の支援については、学生による授業評価、満足度の調査が毎年行われており、その結果が「教育評価報告書」として公開され、改善の努力が行われている。

【優れた点】

- 学生の自学自習を推進する多様な学びの場や学修支援のための諸センターが整備され、利用を促進する体制が整備されていることは高く評価できる。
- 「修学ポートフォリオ」「自己評価レポート」を中心とする「KIT ポートフォリオ・システム」は、自己分析・診断を促し、学生の意欲を引出す仕組みを有する優れた学修支援システムとして高く評価できる。

2-4 単位認定、卒業・修了認定等

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

【評価結果】

基準項目 2-4 を満たしている。

【理由】

単位認定、進級及び卒業・修了認定などに関する基準は学則及び「修学規程」に定められ、教員には「学部・大学院授業運営について」、学生には「CAMPUS NOTE」「GRADUATE CAMPUS NOTE」を通し、周知されている。

単位認定については、評価方法ごとの配点割合が「学習支援計画書（シラバス）」に明示されている。評価に関わった諸資料は電子的に保管され、適切な評価を行う基礎資料として取扱われている。単位認定に対する学生の異議申立ても認められている。厳正な単位認定に基づき、進級及び卒業・修了認定が適切に行われている。

2-5 キャリアガイダンス

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

【評価結果】

基準項目 2-5 を満たしている。

【理由】

1 年次の必修科目「修学基礎」をはじめ、年次ごとにキャリア教育科目が開講され、体系的教育が実施されている。キャリア形成に係るさまざまな活動を記録し自省していくツールとして、数種類のポートフォリオ・システムが提供されている。

「実務経験を通じたキャリア形成の重要性に対する意識の醸成」を狙いとして、学内各部署の業務補助、企業でのインターンシップ、連携企業から提案されたテーマへの取組みなど、多様なキャリア形成の機会を提供している。

進路アドバイザーやキャリアカウンセラーによる相談・助言、また、各種のセミナーや講座を実施するため「進路開発センター」が設置されているほか、資格取得支援のために「自己開発センター」が設置され、学生のキャリア形成を組織的に支援している。

2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

【評価結果】

基準項目 2-6 を満たしている。

【理由】

大学は教育目標である「自ら考え行動する技術者」育成の達成状況を点検・評価するた

めに「授業アンケート」をはじめとする種々の調査を行っている。

大学は「授業アンケート」に対するフィードバックコメントを教員に義務付け、教員はアンケートに基づいて「授業点検シート」を作成して授業改善に活用するなど、「授業アンケート」を利用して教育の点検・評価を行い、それを教育内容・方法及び学修指導などの改善に結びつけている。

【優れた点】

- 「教育点検評価部委員会」が中心となって全ての科目について「授業アンケート」を実施し、その結果に基づき教員が「授業点検シート」を作成するなど、大学が授業改善のツールとして「授業アンケート」を有効に活用していることは高く評価できる。

2-7 学生サービス

2-7-① 学生生活の安定のための支援

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

【評価結果】

基準項目 2-7 を満たしている。

【理由】

学生生活を支援するため、大学は学内に多様な厚生施設を敷設して学修環境と学修支援の充実に努めており、独自の奨学金制度も含め安定した学生生活の支援を行うための体制整備を行っている。

学修に関しては「修学相談室」に来室した学生から、大学生活全般に関しては「学園協議会」に参加した学生代表から意見や要望を聞き、充実した学修環境の実現を図っている。

【優れた点】

- 日本学生支援機構の奨学金に加え、「リーダーシップアワード生制度」「スカラーシップメンバー」「スカラーシップフェロー」などの大学固有の奨学金制度が設けられ、学生へ充実した経済支援が行われていることは高く評価できる。

2-8 教員の配置・職能開発等

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取り組み

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

【評価結果】

基準項目 2-8 を満たしている。

【理由】

大学の教育目標「自ら考え行動する技術者」実現のため適切な数の教員が確保され、各教学組織に適切に配置されている。

配置される学科の教育内容を十分に考慮した教員採用が行われており、新任教員に対し「KIT-FD 研修会」を実施して、教育目標を達成すると同時に大学の教育指針に沿った教育が行えるよう適切な指導体制が構築されている。また、教員の資質・能力向上のために、「教育点検評価部委員会」が企画する「教育フォーラム」等の充実した取組みが行われている。

大学は「高邁な人間形成」を建学の綱領に掲げ、基礎教育部のもとに修学基礎教育課程をはじめとする充実した諸課程からなる教養教育体制を構築し、教養教育を行っている。

【優れた点】

○教育目標を実現するために設置した基礎教育部は、「KIT 総合アンケート調査」の学修支援に対する学生の高い満足度が示すように、学長が部長を兼務することによってその体制が有効に機能しており高く評価できる。

2-9 教育環境の整備

- 2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理
- 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

【評価結果】

基準項目 2-9 を満たしている。

【理由】

十分な広さを持つ校地に、適切に整備・管理された「夢考房」「スポーツ考房」「ライブラリーセンター（図書館）」など優れた教学関連施設を設置し、大学が目標とする「夢考房キャンパス」の構築を推進している。

また、授業運営においては、教育内容に見合った適切かつ適正な学生数の管理が行われている。

【優れた点】

- 学生の自主的学修をサポートするプロジェクト教育センター「夢考房」は、充実したライブラリーセンター（図書館）及び IT 環境とともに、「夢考房キャンパス」の実現を目指す KIT 教育の中核となる優れた教学施設であり、高く評価できる。
- 「スポーツ考房」を核とする体育施設は適切に整備され充実しており、体育授業のみならず学生の健康維持と体力増進への優れた支援施設となっていることは高く評価できる。

基準 3. 経営・管理と財務

【評価結果】

基準 3 を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

3-1 経営の規律と誠実性

- 3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明
- 3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力
- 3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守
- 3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮
- 3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

【評価結果】

基準項目 3-1 を満たしている。

【理由】

学園の経営理念に基づき、「学園共同体として共有すべき価値」として、「KIT-IDEALS」を定め、「イーグルブック」などにより解説、公表し、学生、理事、教職員の行動規範として常に意識し、尊重することを求めている。また、大学の使命・目的実現への努力は、「夢考房」を擁する教育支援機構、研究支援機構や産学連携機構を通して、組織的に行われている。

学校教育法をはじめ、大学の設置・運営に関する法令・通知などと大学の規定との整合性に関しては、学則をはじめとする規程の整備により十分に担保されている。

安全衛生・防火防災については、規程が整備され、これに基づく委員会を中心に、教職員・学生の安全確保・健康の維持増進に向け、対策マニュアルやガイドブックの制作・配付、食糧備蓄、定期的な防災訓練などが行われている。

人権に関しては、さまざまなハラスメントの禁止を就業規則にうたうとともに「性差別の防止に関する指針」が定められている。また、相談窓口の設置や各専門委員会での防止策や発生時の対応などについての検討が行われている。

教育研究活動情報及び財務情報の公表は、「学校教育法施行規則」などの法令及び「金沢工業大学情報公開規程」に基づいて、内容・方法ともに適切に行われている。

【優れた点】

- 学生を「主要な顧客」と位置付けた上で、顧客満足度の向上を目指したさまざまなプロジェクトに教職協働で取り組んでいることは、使命・目的実現への継続的努力の視点から高く評価できる。

3-2 理事会の機能

- 3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性

【評価結果】

基準項目 3-2 を満たしている。

【理由】

「学校法人金沢工業大学寄附行為」「学校法人金沢工業大学寄附行為細則」及び「学校法人金沢工業大学人事委員会規則」などが整備され、定期開催の理事会、毎月開催の常任理事会・人事委員会を通して安定した業務執行が行われている。理事会の権限の一部が常任理事会及び人事委員会に委譲され、業務執行の迅速化が図られている。

理事会の諮問機関として、理事会・教授会・学友会の代表からなり、三者が対等に意見を交換する場としての「学園協議会」が、また、学外の有識者で構成され、法人の運営全般に関する点検・評価を目的とした「十年委員会」が置かれ、戦略的な意思決定の一翼を担っている。

3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

【評価結果】

基準項目 3-3 を満たしている。

【理由】

学内において、議決機関、審議機関、諮問機関、連絡機関が明確に定義され、構造化されている。審議機関としての各種委員会、学長の諮問機関としての「部長会」、議決機関としての「全学教授会」、各教授会、「大学院委員会」、各研究科委員会、「教育研究会議」が機能し、スムーズな意思決定が行われている。とりわけ、学則により「教育研究会議」が全学的重要事項の議決機関として位置付けられ、機能していることは、大きな特徴となっている。

学長の運営方針などは、学長が議長を務める「教育研究会議」及び「全学教授会」の議決機関、全教員が出席する全学部会、新年互礼会などを通して周知され、学長がリーダーシップを発揮する体制は整っている。

3-4 コミュニケーションとガバナンス

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

【評価結果】

基準項目 3-4 を満たしている。

【理由】

「学校法人金沢工業大学寄附行為細則」により、経営と教学の責任分担が明確に規定されているところであるが、管理部門と教学部門の連携は、経営責任を持つ理事長と教学の責任を持つ学長が出席する常任理事会において組織的に図られている。また、相互のチェ

ック機能は通常の理事会や評議員会に加え、学生、理事、教職員で構成される「学園協議会」がその役割を果たしており、独自性を示すものとなっている。

監事の選任は、寄附行為細則に基づき、役員選考委員会の議を経て、学園倫理委員会の審査及び評議員会の同意を得るなど適正に行われている。また、監事の理事会への出席状況は適切である。

評議員会は寄附行為及び寄附行為細則の定めに従って運営されている。臨時を含め年数回の開催となっており、評議員の出席状況も良好である。

意思決定の伝達ルートは整備されており、トップのリーダーシップが発揮される体制が整っている。また、教職員の提案は「KIT 総合アンケート」によりくみ上げられ、「KIT 評価向上委員会」「顧客満足度向上委員会」などの検討を経て、業務改善につながるシステムが構築されており、具体的な成果に結びついている。

3-5 業務執行体制の機能性

- 3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保
- 3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性
- 3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

【評価結果】

基準項目 3-5 を満たしている。

【理由】

大学の管理運営に関わる専門家集団としての事務組織は、法人本部、大学事務局、教育支援機構、研究支援機構、産学連携機構などで構成されている。大学事務局から独立した形での各機構の設置は特徴となっている。

職員全体に占める専任職員の割合は高く、適正な状態であり、全体として必要な職員が確保されている。

業務執行は、常任理事会による日常的な意思決定が「部課長会議」の場で周知され、「職務権限委任規程」及び「稟議規程」に則った責任体制のもとで行われている。

職員の資質・能力向上のための研修は、新採用職員対象、職員対象がそれぞれに開催され、また、建学精神の継承と啓蒙をつかさどる「明倫館」主催の講座が、希望者を対象に定期的に行われている。

3-6 財務基盤と収支

- 3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立
- 3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

【評価結果】

基準項目 3-6 を満たしている。

【理由】

法人の財務運営は、各年度の収支予算書を基礎として作成される「中長期・資金収支計画」のもとで行われている。収支バランスについては、耐震化工事に伴う資産処分差額計上の影響がみられるものの、全体としては安定した推移をみせている。

帰属収入の大部分を学生生徒等納付金が占めているところ、大学の入学定員、収容定員ともに一定の充足率を継続しており、安定的な収入基盤となっている。一方、支出面では、人件費比率、教育研究費比率ともに一定の指標を設定した財務管理が行われている。

外部資金については、研究補助金などを獲得しているほか、教育に関する競争的資金の獲得についても積極的に取組んでいる。

3-7 会計

3-7-① 会計処理の適正な実施

3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

【評価結果】

基準項目 3-7 を満たしている。

【理由】

学校法人会計基準に基づき「学校法人金沢工業大学経理規則」及び「学校法人金沢工業大学経理規則細則」が定められており、会計処理はこれらに従って行われている。

「予算編成規程」に従って予算実績比較検討及び予算の補正に関する審議が行われ、適宜補正予算を作成している。収支決算書類では最終補正予算との対比が示されている。

法令に基づく監事監査、監査法人監査のほか、「学校法人金沢工業大学管理規則」及び「学校法人金沢工業大学内部監査規則」による内部監査が実施されている。

基準 4. 自己点検・評価

【評価結果】

基準 4 を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

4-1 自己点検・評価の適切性

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

【評価結果】

基準項目 4-1 を満たしている。

【理由】

「教育の卓越性」及び「サービスの卓越性」という「学園のビジョン」を実現するため

に、前者については「教育・研究内容の充実」、後者については「顧客としての学生満足度の向上」という「最も重視すべき点検・評価項目」が挙げられており、それぞれについて、法令上の自己点検・評価はもとより、日本技術者教育認定機構(JABEE)、日本品質保証機構(JQA)などによる外部評価が経年的に行われている。

大学の自己点検・評価は「教育点検評価部委員会」を中心に、大学事務局や法人本部の「企画部 CS 室」「産学連携推進部企画委員会室」などとの連携で行われている。

教育プログラムの自己点検・評価については、「授業アンケート」及び各教員が作成する「授業点検シート」をツールとした、各学科目及びプログラム全体の学修目標の達成度を確認するための PDCA サイクルが確立されている。

【優れた点】

○多様な外部評価を受審しながら、学生満足度や教育内容の充実と向上を目指していることは高く評価できる。

4-2 自己点検・評価の誠実性

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

【評価結果】

基準項目 4-2 を満たしている。

【理由】

大学の自己点検・評価では、「CAMPUS」掲載データ、授業アンケート結果などの公開情報を基本的なエビデンスとして用いている。

自己点検・評価に必要なエビデンス情報は、大学の IR(Institutional Research)部署と位置付けられている「産学連携推進部・企画委員会室」で統一的に集約・整理され、必要に応じ、教務部委員会、教育点検評価部委員会などの関係委員会で分析、検討が加えられている。

自己点検・評価報告書はホームページ上で公表されている。

4-3 自己点検・評価の有効性

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

【評価結果】

基準項目 4-3 を満たしている。

【理由】

入学試験、教育実践、修学支援といったモジュールごとに PDCA サイクルが構築されており、それらを有機的に関連させるとともに、全学的な連携体制を整備し、教育の質保証

金沢工業大学

を実現しようとしている。

このような仕組みを通じて提示される課題については、学長が委員長を務める「KIT 評価向上委員会」で審議、決定を行う体制が整えられている。

IV 大学の概況（平成 23(2011)年 5 月 1 日現在）

開設年度	平成 40(1965)年度
所在地	石川県野々市市扇が丘 7-1 石川県白山市八束穂 3-1（石川ソフトリサーチパーク内） 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘 石川県金沢市天池町 3 新潟県妙高市関川 2275-5 東京都港区愛宕 1-3-4 愛宕東洋ビル 12F

学部・研究科

学部・研究科	学科・研究科専攻
工学部	機械工学科 ロボティクス学科 航空システム工学科 電気電子工学科 情報通信工学科 情報工学科※ 建築学科※
環境・建築学部	環境土木工学科 建築学科 建築都市デザイン学科 バイオ化学学科※ 環境化学学科※
情報学部	メディア情報学科 心理情報学科 情報経営学科 情報工学科
バイオ・化学部	応用バイオ学科 応用化学科
情報フロンティア学部※	メディア情報学科 生命情報学科 心理情報学科 情報マネジメント学科
工学研究科	機械工学専攻 環境土木工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻 システム設計工学専攻 バイオ・化学専攻 材料設計工学専攻 建築学専攻 ビジネスアーキテクト専攻 高信頼ものづくり専攻 知的創造システム専攻
心理科学研究科	臨床心理学専攻

※は募集停止

V 評価の経過

評価の経過一覧

年月日	実施項目
平成 23(2011)年 9 月末	「平成 23 年度 大学機関別評価 自己点検・評価報告書」を受理 即日、評価チームに送付し、書面調査を開始

金沢工業大学

11月7日	第1回評価員会議開催
11月15日	「書面質問」を大学へ送付
11月22日	大学から「書面質問」に対する回答を受理
12月5日	実地調査の実施
12月6日	第2・3回評価員会議開催
～12月7日	12月7日 第4回評価員会議開催
12月21日	第5回評価員会議開催
平成24(2012)年3月末	「平成24年度大学機関別認証評価 自己点検評価書」を受理
5月7日	大学から「調査報告書案」に対する意見申立てを受理（意見あり）
5月25日	大学から「評価報告書案」に対する意見申立てを受理（意見なし）

VI 提出資料一覧

- ・自己点検評価書（付：電子媒体）
- ・エビデンス集（データ編）（付：電子媒体）
- ・エビデンス集（資料編）

エビデンス集（資料編）内訳

基礎資料

コード	タイトル	備考
	該当する資料名及び該当ページ	
【資料 F-1】	寄附行為	
	学校法人金沢工業大学寄附行為	
【資料 F-2】	大学案内（最新のもの）	
	2011 入学案内、2011 金沢工業大学大学院案内、 2012 入学案内、2012 金沢工業大学大学院案内	
【資料 F-3】	大学学則、大学院学則	
	金沢工業大学規則集 2011	
【資料 F-4】	学生募集要項、入学者選抜要綱（最新のもの）	
	2011 学生募集要項、2012 学生募集要項	
【資料 F-5】	学生便覧、履修要項	
	CAMPUS NOTE 2011	
【資料 F-6】	事業計画書（最新のもの）	
	且月会会報 2011.4月号に掲載（58ページ）	
【資料 F-7】	事業報告書（最新のもの）	
	平成22年度事業報告書	
【資料 F-8】	アクセスマップ、キャンパスマップなど	【資料 F-5】と同じ
	CAMPUS NOTE 2011 CAMPUS MAP	
【資料 F-9】	法人及び大学の規程一覧（規程集目次など）	
	学校法人金沢工業大学規則集目次（学内イントラネット） http://comet.kanazawa-it.ac.jp/kisoku/	

金沢工業大学

【資料 F-10】	金沢工業大学の現状	
	CAMPUS'11	
【資料 F-11】	学園共同体の理念・倫理・行動規範等	
	イーグルブック「工学アカデミアの実現を目指して」	

基準 1. 使命・目的等

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性		
【資料 1-1-1】	2011 入学案内「大学ガイド」(1 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-1-2】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒理念⇒建学綱領)	
【資料 1-1-3】	2011 入学案内「大学ガイド」(1 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-1-4】	CAMPUS'11 (1 ページ)	
【資料 1-1-5】	イーグルブック (4 ページ)	
【資料 1-1-6】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒理念⇒建学綱領)	【資料 1-1-2】と同じ
1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性		
【資料 1-2-1】	イーグルブック	【資料 F-11】と同じ
【資料 1-2-2】	CAMPUS'11 (1～2、14～17 ページ)	【資料 F-10】と同じ
【資料 1-2-3】	金沢工業大学規則集 2011 (10 ページ)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-4】	CAMPUS'11 (9～10 ページ)	【資料 F-10】と同じ
1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性		
【資料 1-3-1】	イーグルブック	【資料 F-11】と同じ
【資料 1-3-2】	2011 入学案内「大学ガイド」(1 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-3-3】	CAMPUS'11 (1 ページ)	【資料 F-10】と同じ
【資料 1-3-4】	イーグルブック	【資料 F-11】と同じ
【資料 1-3-5】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒理念)	
【資料 1-3-6】	学園戦略委員会・第二次答申	
【資料 1-3-7】	学校法人金沢工業大学管理規則	
【資料 1-3-8】	学校法人金沢工業大学規則集目次 (学内イントラネット) http://comet.kanazawa-it.ac.jp/kisoku/	【資料 F-9】と同じ
【資料 1-3-9】	金沢工業大学主任会議規程	
【資料 1-3-10】	金沢工業大学学系会議及び課程会議に関する規程	
【資料 1-3-11】	金沢工業大学全学部会規程	
【資料 1-3-12】	金沢工業大学部長会規程	
【資料 1-3-13】	学校法人金沢工業大学管理規則 第 3 条	
【資料 1-3-14】	金沢工業大学教育研究会議運営規則	
【資料 1-3-15】	金沢工業大学規則集 2011 (11 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-3-16】	金沢工業大学教授会運営規則 第 8 条	
【資料 1-3-17】	金沢工業大学規則集 2011 (27 ページ)	【資料 F-2】と同じ

金沢工業大学

【資料 1-3-18】	金沢工業大学大学院研究科委員会運営規則 第9条	
-------------	-------------------------	--

基準 2. 学修と教授

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
2-1. 学生の受入れ		
【資料 2-1-1】	2011 入学案内「入試ガイド」(裏表紙)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-1-2】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (教育⇒教育目標)	
【資料 2-1-3】	高校訪問実施校数	
【資料 2-1-4】	KIT オープンフォーラム参加状況	
【資料 2-1-5】	進学説明会 集計 (KIT 主催・高校主催・媒体主催)	
【資料 2-1-6】	模擬講義・講演一覧	
【資料 2-1-7】	模擬実験授業一覧	
【資料 2-1-8】	KIT メイトシステムによる大学情報提供数	
【資料 2-1-9】	質問受付件数	
【資料 2-1-10】	オープンキャンパス集計表	
【資料 2-1-11】	キャンパス見学受付件数	
【資料 2-1-12】	2011 大学院入学案内 (2 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-1-13】	2011 入学案内「入試ガイド」(4 ページ)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-1-14】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (入試案内)	
2-2. 教育課程及び授業方法		
【資料 2-2-1】	金沢工業大学における教育改革への取り組み	
【資料 2-2-2】	CURRICULUM GUIDE BOOK 2011	
【資料 2-2-3】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (教育⇒KIT の特色ある教育⇒教育目標)	
【資料 2-2-4】	「学習支援計画書の作成について (依頼)」	
【資料 2-2-5】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (教育⇒KIT の特色ある教育⇒特設サイト⇒学習支援計画書 (シラバス))	
2-3. 学修及び授業の支援		
【資料 2-3-1】	CAMPUS'11 (22 ページ～32 ページ)	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-3-2】	教員のオフィスアワー一覧	
【資料 2-3-3】	CAMPUS'11 (22 ページ、24 ページ)	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-3-4】	TA・SA 業務内容および取り扱いに関する資料	
2-4. 単位認定、卒業・修了		
【資料 2-4-1】	金沢工業大学規則集 2011 (10～21 ページ)	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-2】	学部・大学院授業運営について	
【資料 2-4-3】	CAMPUS NOTE 2011 (STUDY 9、12、15、17 ページ) (APPLICATION 16、18～25 ページ)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-4】	GRADUATE CAMPUS NOTE 2011 (STUDY 3～5、12～15 ページ) (APPLICATION 12 ページ)	

金沢工業大学

【資料 2-4-5】	異議申立件数（平成 22 年度）	
2-5. キャリアガイダンス		
【資料 2-5-1】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （教育⇒KIT の特色ある教育⇒ポートフォリオシステム）	
【資料 2-5-2】	CAMPUS'11（30 ページ）	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-5-3】	CAMPUS'11（17 ページ）	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-5-4】	CAMPUS'11（28 ページ）	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-5-5】	2012 入学案内「大学ガイド」（62～63 ページ）	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-5-6】	KIT インターンシップ実績	
【資料 2-5-7】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒GP（Good Practice 優れた取組み）⇒GP 選定プログラム⇒文部科学省平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」選定⇒取組の詳細）	
2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック		
【資料 2-6-1】	2010（在学生・卒業生・教職員）KIT 総合アンケート調査結果 報告書（抜粋）（PDF） <10-3>卒業後の KIT の評価 ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒各種アンケート結果）	
【資料 2-6-2】	平成 22 年度授業アンケート提出状況	
【資料 2-6-3】	平成 23 年度 第 4 回教育点検評価部委員会 議案（写）	
【資料 2-6-4】	KIT Progress－工学教育研究－各号の編集方針と内容	
【資料 2-6-5】	教育フォーラム（学内イントラネット） http://comet.kanazawa-it.ac.jp/suishin/forum/forum.htm	
2-7. 学生サービス		
【資料 2-7-1】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 3 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-2】	修学アドバイザー名簿	
【資料 2-7-3】	CAMPUS'11（36 ページ）	【資料 F-10】と同じ
【資料 2-7-4】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 19 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-5】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 20 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-6】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 17 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-7】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （交通アクセス⇒やつかほりサーチキャンパス⇒やつかほり サーチキャンパスへの交通アクセスはこちら）	
【資料 2-7-8】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 16 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-9】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 10 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-10】	2011 CAMPUS NOTE（FACILITIES 12 ページ）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-11】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （学生生活・課外活動⇒奨学金について）	
【資料 2-7-12】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （学生生活・課外活動⇒学部生対象の特別奨学生制度について）	
【資料 2-7-13】	2011 入学案内「入試ガイド」（1 ページ）	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-7-14】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （学生生活・課外活動⇒大学キャンパスノート⇒大学キャンパス ノート⇒大学院進学・就職⇒大学院の奨励金など）	
【資料 2-7-15】	学校法人金沢工業大学奨学支援規程	

金沢工業大学

【資料 2-7-16】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (学生生活・課外活動⇒大学キャンパスノート⇒大学キャンパスノート⇒CAMPUS LIFE⇒アルバイト)	
【資料 2-7-17】	課外活動支援に関する規程	
【資料 2-7-18】	CAMPUS'11 (1 ページ)	【資料 F-10】 と同じ
【資料 2-7-19】	イーグルブック	【資料 F-11】 と同じ
【資料 2-7-20】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (お問合せ一覧□在学生質問投稿ボックス (学内専用))	
【資料 2-7-21】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内□自己点検・外部評価□各種アンケート結果)	
【資料 2-7-22】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (保護者の方□拯友会)	
2-8. 教員の配置・職能開発等		
【資料 2-8-1】	2012 入学案内「大学ガイド」(94 ページ)	【資料 F-2】 と同じ
【資料 2-8-2】	2012 年度大学院案内 ビジネスアーキテクト専攻	【資料 F-2】 と同じ
【資料 2-8-3】	2012 年度大学院案内 知的創造システム専攻	【資料 F-2】 と同じ
【資料 2-8-4】	金沢工業大学教員資格審査規程	
【資料 2-8-5】	学校法人金沢工業大学任期付教員規程	
【資料 2-8-6】	平成 22 年度 主任会議資料 (写) : 教員の昇格・昇任に関する基準	
【資料 2-8-7】	平成 22 年度 全学部会資料 (写) : 教員の職務について	
【資料 2-8-8】	平成 22 年度 教育研究会議議事録 (写) : 教員資格審査委嘱・報告	
【資料 2-8-9】	派遣留学規程	
【資料 2-8-10】	平成 22 年度 主任会議資料 (写) : KIT-FD 研修会の実施について	
【資料 2-8-11】	平成 22 年度 数理工教育研究センターFD 研修会報告書	
【資料 2-8-12】	CURRICULUM GUIDE BOOK 2011	
【資料 2-8-13】	2011 CAMPUS NOTE (CURRICULUM 3~9 ページ)	【資料 F-5】 と同じ
【資料 2-8-14】	2012 入学案内「大学ガイド」(32~33 ページ)	【資料 F-2】 と同じ
2-9. 学修環境の整備		
【資料 2-9-1】	CAMPUS '11 (22~33 ページ)	【資料 F-10】 と同じ
【資料 2-9-2】	2012 入学案内「大学ガイド」(65~78 ページ)	【資料 F-2】 と同じ
【資料 2-9-3】	KIT-LC 現状報告書 (平成 23 年 4 月 1 日)	
【資料 2-9-4】	平成 22 年度 金沢工科大学園安全月報 (旦月会会報抜粋)	
【資料 2-9-5】	定例防災訓練実施について (平成 22 年度、平成 23 年度)	
【資料 2-9-6】	大地震対応ガイドブック (学生用)	
【資料 2-9-7】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒自己点検・外部評価⇒各種アンケート結果)	
【資料 2-9-8】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (お問合せ一覧⇒在学生質問投稿ボックス (学内専用))	
【資料 2-9-9】	平成 22 年度前学期クラス人数及び履修人数一覧表	

基準 3. 経営・管理と財務

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	

金沢工業大学

3-1. 経営の規律と誠実性		
【資料 3-1-1】	学校法人金沢工業大学寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-1-2】	学校法人金沢工業大学建学綱領	
【資料 3-1-3】	イーグルブック	【資料 F-11】と同じ
【資料 3-1-4】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒ビジョンと実践目標□イーグルブック)	
【資料 3-1-5】	学校法人金沢工業大学寄附行為細則 第2条	
【資料 3-1-6】	金沢工業大学部長会規程	
【資料 3-1-7】	CAMPUS'11 (22～31 ページ)	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-1-8】	学校法人金沢工業大学管理規則	
【資料 3-1-9】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒日本経営品質賞への取り組み)	
【資料 3-1-10】	文書取扱規程	
【資料 3-1-11】	学校法人金沢工業大学安全衛生管理規程	
【資料 3-1-12】	学校法人金沢工業大学安全衛生委員会規則	
【資料 3-1-13】	新型インフルエンザ対策マニュアル (教職員用)	
【資料 3-1-14】	AED 設置場所一覧	
【資料 3-1-15】	学生のための安全の手引き	
【資料 3-1-16】	実験・研究のための安全指針	
【資料 3-1-17】	学内イントラネット (教職員) http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/inside/	
【資料 3-1-18】	学内イントラネット (学生) http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/	
【資料 3-1-19】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (在学生の方)	
【資料 3-1-20】	学校法人金沢工業大学防火防災管理規則	
【資料 3-1-21】	防火防災委員会規程	
【資料 3-1-22】	CAMPUS NOTE 2011 大地震が発生したら (STUDY (30、31 ページ))	【資料 F-5】と同じ
【資料 3-1-23】	災害及び防災対策に係わる連携協力に関する協定 (写)	
【資料 3-1-24】	学生心得 (KIT HANDBOOK)	
【資料 3-1-25】	学校法人金沢工業大学就業規則第20条第8号	
【資料 3-1-26】	性差別の防止に関する指針	
【資料 3-1-27】	性差別防止委員会規則	
【資料 3-1-28】	CAMPUS NOTE 2011 ハラスメント相談について (STUDY 29 ページ)	【資料 F-5】と同じ
【資料 3-1-29】	キャンパス・ハラスメント防止委員会規程	
【資料 3-1-30】	教育活動適正化委員会規程	
【資料 3-1-31】	学校法人金沢工業大学における公益通報等に関する規則	
【資料 3-1-32】	学校法人金沢工業大学情報公開規程	
【資料 3-1-33】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒教育情報公表資料□教育情報の公表)	
【資料 3-1-34】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒学園の状況)	
3-2. 理事会の機能		

金沢工業大学

【資料 3-2-1】	学校法人金沢工業大学寄附行為細則	
【資料 3-2-2】	学校法人金沢工業大学常任理事会規則	
【資料 3-2-3】	学校法人金沢工業大学人事委員会規則	
【資料 3-2-4】	学園協議会規則	
【資料 3-2-5】	学校法人金沢工業大学十年委員会規程	
【資料 3-2-6】	十年委員会の開催歴	
3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ		
【資料 3-3-1】	平成 22 年度 第 18 回 教育研究会議会議録（写）	
【資料 3-3-2】	平成 22 年度 第 8 回 全学教授会会議録（写）	
【資料 3-3-3】	平成 22 年度 第 7 回 全学部会（写）	
【資料 3-3-4】	平成 22 年度 第 19 回 主任会議（写）	
【資料 3-3-5】	旦月会会報 平成 23 年 1 月号（7～9 ページ）	
3-4. コミュニケーションとガバナンス		
【資料 3-4-1】	学校法人金沢工業大学寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-2】	学校法人金沢工業大学寄附行為細則 第 14 条	
【資料 3-4-3】	旦月会会報 平成 23 年 1 月号（写）	
【資料 3-4-4】	学園協議会規則	
【資料 3-4-5】	平成 23 年度学園協議会報告	
【資料 3-4-6】	学校法人金沢工業大学十年委員会規程	
【資料 3-4-7】	学校法人金沢工業大学寄附行為	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-8】	学校法人金沢工業大学寄附行為細則 第 12 条・第 16 条	
【資料 3-4-9】	平成 23 年度部課長会議資料（4 月 19 日開催分）	
【資料 3-4-10】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒各種アンケート結果）	
3-5. 業務執行体制の機能性		
【資料 3-5-1】	イーグルブック	【資料 F-11】と同じ
【資料 3-5-2】	金沢工科大学園事務組織表(平成 23 年 5 月 1 日現在)（写）	
【資料 3-5-3】	平成 20 年度～平成 23 年度までの採用者（職員）	
【資料 3-5-4】	平成 23 年度部課長会議資料（4 月 19 日開催分）	
【資料 3-5-5】	職務権限委任規程	
【資料 3-5-6】	稟議規程	
【資料 3-5-7】	平成 23 年度穴水グループ討議支援委員会名簿	
【資料 3-5-8】	平成 23 年度教職員研修会次第（4 月分・8 月分）	
【資料 3-5-9】	平成 22 年度学内での研修会等の開催について	
【資料 3-5-10】	平成 22 年度学外での研修会等の参加について	
3-6. 財務基盤と収支		
【資料 3-6-1】	中長期・資金収支計画	
【資料 3-6-2】	計算書類(平成 18 年度～平成 22 年度)	
【資料 3-6-3】	平成 23 年度 収支予算書(2)	

金沢工業大学

【資料 3-6-4】	平成 22 年度 財産目録	
【資料 3-6-5】	金沢工業大学の外部資金受入の取り組み	
【資料 3-6-6】	研究に関する外部資金の獲得状況（金沢工業大学）	
【資料 3-6-7】	教育に関する競争的資金の獲得状況	
3-7. 会計		
【資料 3-7-1】	学校法人金沢工業大学経理規則	
【資料 3-7-2】	学校法人金沢工業大学経理規則細則	
【資料 3-7-3】	予算編成規程	
【資料 3-7-4】	予算編成審議会規則	
【資料 3-7-5】	予算執行規程	
【資料 3-7-6】	購買規程	
【資料 3-7-7】	財産管理規程	
【資料 3-7-8】	学校法人金沢工業大学資産運用管理規程	
【資料 3-7-9】	稟議規程	
【資料 3-7-10】	平成 22 年度独立監査法人監査報告書	
【資料 3-7-11】	平成 22 年度監査報告書	
【資料 3-7-12】	補助金等に係わる監査報告（最終）（平成 22 年度）	
【資料 3-7-13】	理事長監査報告書（平成 22 年度）	
【資料 3-7-14】	学校法人金沢工業大学内部監査規則	
【資料 3-7-15】	学校法人金沢工業大学寄附行為	【資料 F-1】と同じ

基準 4. 自己点検・評価

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
4-1. 自己点検・評価の適切性		
【資料 4-1-1】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （教育情報の公表⇒教育情報公開資料⇒外部評価の状況）	
【資料 4-1-2】	CAMPUS `11	【資料 F-10】と同じ
【資料 4-1-3】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （教育情報の公表⇒教育情報公開資料）	
【資料 4-1-4】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒日本経営品質賞への取り組み）	
【資料 4-1-5】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒日本技術者教育認定機構（JABEE））	
4-2. 自己点検・評価の誠実性		
【資料 4-2-1】	CAMPUS `11	【資料 F-10】と同じ
【資料 4-2-2】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （教育情報の公表⇒教育情報公開資料）	
【資料 4-2-3】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒大学基準協会／日本高等教育評価機構）	
【資料 4-2-4】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ （大学案内⇒自己点検・外部評価⇒日本経営品質賞への取り組み）	

金沢工業大学

【資料 4-2-5】	ホームページ http://www.kanazawa-it.ac.jp/ (大学案内⇒自己点検・外部評価⇒日本技術者教育認定機構(JABEE))	
4-3. 自己点検・評価の有効性		
【資料 4-3-1】	学校法人金沢工業大学寄附行為細則第 14 条	

